

③8とっとり県美応援団 (琴浦町)

倉吉市に誕生した「鳥取県立美術館」(県美)を地元中部地区の住民だけでなく、県全体で応援したいと2018年8月に発足した。県外の美術館を視察して住民のサポートについて学び、地元の文化の学習などにも務める。

発会のきっかけは、16年2月の「県立美術館を考える中部地区の集い」で、東京芸術大の澄川喜一学長が発した言葉だ。

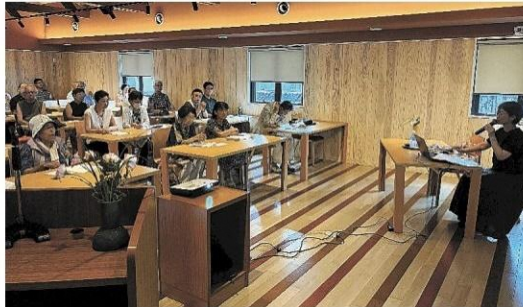
「(県立美術館の成功には)地域住民の熱意が最も大切だ。ボランティアが役割を担い、ただの『箱もの』



地域の文化学び、サポート

8月

鳥取県の写真の歴史研修会



にしないことが重要」

18年6月、澄川学長が美術館長を務める島根県芸術文化センター「グラントワ」を視察し、県立美術館の盛り上げ機運が高まって発足。親しまれる住民組織にしよう」ととっとり県美応援団」と名付けた。

佐伯健二団長は「地域の文化活動や文化的な土壌を顕彰し、学ぶことも県美の

サポートになる。地域住民として誇りを持ちながら、外から来た人を案内したい」と地域の文化学習の必要性を唱える。

同応援団メンバーは、倉吉市の小川氏庭園「環翠園」やアート格納庫Mを見学したり、旧倉吉中学校(現倉吉東高)の美術教師、中井金三(1883〜1969年)、中井を中心設立された芸術文化団体「砂丘社」についても学んだりしている。

今後は、広く県内に募って研修や文化学習参加者数を増やすほか、研修先で県美をPRしていく。鳥取県がふること納税の仕組みを活用して地域づくり団体を応援する「ギフ鳥」の寄付対象団体にも登録され、活動への寄付を募っている。



「ギフ鳥」の詳細はこちら